

平成 28 年度 事業報告書

東京都目黒区下目黒 4 丁目 1 番 1 号

公益財団法人 目黒寄生虫館

はじめに

公益財団法人は民による公益の増進を使命とするものである。当法人も寄生虫学の研究等事業と普及啓発事業を通じて寄生虫学の発展に寄与すべく、各種の事業活動を展開している。当法人の収益は、約 5 割が財産の運用収益によって賄われている。日銀がマイナス金利政策を実施したことに加え、イギリスの EU 離脱問題やアメリカのトランプ政権の発足など、世界情勢は波乱含みの年度となった。円高による運用収益への影響も懸念されたが、結果的には当初予算から大きく外れることのない運用益が得られたことは、以前より安定性、確実性の高い債券の購入が功を奏したといえる。当年度に実施された各事業について、以下の通り報告する。

研究等事業（定款第 4 条第 1 号事業）

当法人の研究等事業では、寄生虫の分類学および形態学を主体として研究を実施し、日本寄生虫学会をはじめ諸学会において研究報告・論文発表等を行っている。現在、研究には必須となっている遺伝子解析技術を有する研究員を増員し、法人内で得られる研究成果は大きな広がりを見せている。また、学術資料のデータベースの作成を着実に進め、今日はもとより後世の研究者に向けても貢献するものとなっている。その殆どは法人の自主財源をもって遂行され、活発な研究活動が行われた。

また、旧法人時より目黒区教育委員会の委託を受けて実施している区内の学校等の砂場における寄生虫卵調査を、地域に根差した社会貢献活動として継続している。その他、研究成果や知識を基盤として他機関や広く一般に向けて助言・指導を行うなど、多様な観点から専門性の高い事業活動を展開している。

I. 寄生虫学に関する研究・調査活動

1. 寄生虫学に関する研究

A. 論文、その他

1. 小川和夫

1) 小川和夫 (2016): ヘテロボツリウム症. 魚病研究, 51 (2), 1-5.

日本魚病学会創立50周年レビューシリーズの一環として、養殖トラフグに寄生する単生類ヘテロボツリウムに関する研究をまとめた。

2) 白樫 正・小川 和夫 (2016): 魚類住血吸虫症の現状と生態的防除の可能性～薬剤を用いない予防法開発に向けて～. アクアネット, 19 (6), 44-49.

海産養殖魚の重要疾病である住血吸虫症について、研究の現状と対策について、一般向けに解説した。

3) 白樫 正・小川和夫 (2016): 海産養殖魚の住血吸虫症. 魚病研究, 51 (3), 92-98.

日本魚病学会創立50周年レビューシリーズの一環として、海産養殖魚に寄生する住血吸虫による疾病に関する研究をまとめた。

4) Ogawa, K., S. Shirakashi, K. Tani, S. P. Shin, K. Ishimaru, T. Honryo, Y. Sugihara and H. Uchida (2017): Developmental stages of fish blood flukes, *Cardicola forsteri* and

Cardicola opisthorchis (Trematoda: Aporocotylidae), in their polychaete intermediate hosts collected at Pacific bluefin tuna culture sites in Japan. *Parasitology International*, 66 (1), 972-977.

日本の養殖クロマグロに寄生する2種の住血吸虫の中間宿主ゴカイ内における発育ステージを記載した。

- 5) Ogawa, K. and N. Itoh (2017): *Gobioecetes biwaensis* n. g., n. sp. (Monogenea: Dactylogyridae) from the gills of a freshwater gobiid fish, *Rhinogobius* sp. BW Takahashi & Okazaki, 2002, with a redescription of *Parancyrocephaloides daicoci* Yamaguti, 1938. *Parasitology International*, 66 (3), 287-298.

ハゼ科魚ビワヨシノボリとその近縁種のヨシノボリ類の鰓に寄生する単生類を新属 *Gobioecetes* の新種として報告した。ホシセミホウボウ寄生の *Parancyrocephaloides daicoci* も再記載し、これら単生類の類縁関係を形態と遺伝子系統解析によって明らかにした。

2. 巖城 隆

- 1) Mijele, D., T. Iwaki, P. I. Chiyo, M. Otiende, V. Obanda, L. Rossi, R. Soriguier and S. Angelone-Alasaad (2016): Influence of Massive and Long Distance Migration on Parasite Epidemiology: Lessons from the Great Wildebeest Migration. *Ecohealth*, 13(4), 708-719.

野生大型動物の長距離移動が寄生虫感染に及ぼす影響を知るため、130頭の移動性のヌーの年齢・性・移動時間や、消化管内寄生虫の多様性・寄生率・寄生数などを調査した。動物の移動は、寄生虫への宿主の曝露を最小限に抑えるよう働く可能性があることが示唆された。

- 2) Yang, C., Y. Sun, T. Zhi, T. Iwaki, F. B. Reyda and T. Yang (2016): Two new and one redescribed species of *Acanthobothrium* (Cestoda: Onchoproteocephalidea: Onchobothriidae) from *Dasyatis akajei* (Myliobatiformes: Dasyatidae) in the China Sea. *Zootaxa*, 4169(2), 286-300.

アカエイの螺旋腸に寄生する条虫2種 *Acanthobothrium ningdense*, *Acanthobothrium guanimatense* を新種記載し、アカエイから報告された *Acanthobothrium* 属は9種になるが、いくつかの種の分布は地理的に限定されている可能性があることを考察した。

3. 脇 司

- 1) Choi K. S. and T. Waki (2016): *Perkinsus* (Lester and Davis 1981) infection in the Manila clam (*Ruditapes philippinarum*) in Korea; species identification, impacts and spatio-temporal distribution, Proceedings of the Third International Symposium on Asari Clam. 水産研究・教育機構研究報告, 42, 23-27.

アサリに寄生するパーキンサス属原虫について、韓国に分布する種やその感染状況の研究をまとめた。

- 2) Nakao M., T. Waki, M. Sasaki, J. L. Anders, D. Koga and M. Asakawa (2017): *Brachylaima ezohelicis* sp. nov. (Trematoda: Brachylaimidae) found from the land snail *Ezohelix gainesi*, with a note of an unidentified *Brachylaima* species in Hokkaido, Japan. *Parasitology International*, 66(3), 240-249.

北海道に生息する陸貝エゾマイマイを中間宿主とする *Brachylaima* 属吸虫を新種として報告した。

- 3) Waki T (2017): Diversity of terrestrial mollusks and their helminths in artificial environments in Yoyogi park, Tokyo, Japan. *Journal of Asia-Pacific Biodiversity*. DOI: org/10.1016/j.japb.2016.12.002

人工環境下にある都内の公園における陸貝の貝類相と、それらに寄生した蠕虫類を報告した。

B. 学会発表

1. 小川和夫

- 1) Shirakashi, S., K. Tani, K. Ishimaru, T. Honryo, H. Uchida and K. Ogawa: Temporal and spatial infection patterns of tuna blood flukes *Cardicola* spp. in polychaete intermediate hosts at a tuna farm in Japan. 第91回アメリカ寄生虫学会大会、エドモントン、平成28年7月。
養殖クロマグロの2種の住血吸虫の中間宿主の養殖場内の分布や寄生の季節変動について口頭発表した。
- 2) 小川和夫・白樫 正・谷 和樹・石丸克也・本領智記・内田紘臣: 養殖クロマグロに寄生する住血吸虫 *Cardicola orientalis* の中間宿主内の動態. 平成28年度日本魚病学会秋季大会、平成28年9月。
養殖クロマグロの住血吸虫 *Cardicola orientalis* の中間宿主フタエラフサゴカイや寄生の季節変動について口頭発表した。
- 3) 小川和夫・白樫 正・内田紘臣: クロマグロに寄生する *Cardicola* 属住血吸虫3種と中間宿主ゴカイの系統関係. 第76回日本寄生虫学会東日本支部大会、東京都文京区、2016年10月。
養殖クロマグロに見出される *Cardicola* 属住血吸虫3種のセルカリアの形態の比較を行うとともに、これらの住血吸虫と中間宿主となるゴカイの系統関係について口頭発表した。
- 4) 巖城 隆・脇 司・小川和夫: 標本・文献・資料アーカイブ保存機関としての目黒寄生虫館. 第76回日本寄生虫学会東日本支部大会、東京都文京区、2016年10月。
目黒寄生虫館の標本(プレパラート、液浸標本、乾燥標本など)および文献(書籍、雑誌、論文別刷・コピーなど)の所蔵状況について紹介し、これら標本や資料の活用や、標本寄贈・登録について関係者に呼び掛けた。

2. 巖城 隆

- 1) 巖城 隆・勝俣悦子・依田貴之・武津かほり・森嶋康之・杉山 広: シロイルカの腎臓に寄生した線虫 *Crassicauda giliakiana*. 第76回日本寄生虫学会東日本支部大会、東京都文京区、2016年10月。
飼育中に腎不全で死亡したシロイルカの腎臓に寄生した線虫を、形態観察および遺伝子解析により *Crassicauda giliakiana* と同定したことを口頭発表した。
- 2) 巖城 隆・脇 司・小川和夫: 標本・文献・資料アーカイブ保存機関としての目黒寄生虫館. 第76回日本寄生虫学会東日本支部大会、東京都文京区、2016年10月。
1.-4)の共同発表者であるため概要は省略。

3. 脇 司

- 1) 脇 司: キセルガイ科貝類に寄生するダニ *Riccardoella* sp. 第76回日本寄生虫学会東日本支部

大会、東京都文京区、2016年10月。

陸貝に寄生するカタツムリダニの形態、分布および野外での宿主を口頭発表した。

- 2) 巖城 隆・脇 司・小川和夫: 標本・文献・資料アーカイブ保存機関としての目黒寄生虫館. 第76回日本寄生虫学会東日本支部大会、東京都文京区、2016年10月。

1-4)の共同発表者であるため概要は省略。

- 3) Cho Y. G., K. S. Choi, J. Y. Lee, T. Waki, H. M. Lee and K. J. Park : Experimental transplantation of Manila clam *Ruditapes philippinarum* from an area of low *Perkinsus olseni* infection to an area of high *P. olseni* infection on the west coast of Korea: dramatic increase in the prevalence in and infection intensity. NAS 109th Annual Meeting. ノックスビル、平成29年3月。

アサリに寄生する原虫 *Perkiinsus olseni* の韓国における水平伝搬実験について口頭発表した。

- 4) Umeda K., T. Waki, T. Yoshinaga and N. Itoh: Seawater can be alternative to Ray's fluid thioclycollate medium (RFTM) to detect and quantify the infection of *Perkinsus olseni* in the Manila clam *Ruditapes philippinarum*. NAS 109th Annual Meeting. ノックスビル、平成29年3月。

Perkinsus 属原虫の検出に有用な培地の組成について口頭発表した。

C. 研究助成

1. (独)日本学術振興会 科学研究費補助金 平成 28~30 年度 基盤研究(B)

「日米医学協力計画(1965-90年)とJICAによるフィリピンへの医療援助」

研究代表者 飯島渉[青山学院大学文学部] - 研究分担者(小川和夫)

日米医学協力研究における佐々学によるフィラリア研究の資料を分析した。また、一部資料を目黒寄生虫館において整理・保存し、公開する方法を検討した。

2. 日本の野生脊椎動物の寄生虫相データの収集・整理

標記についてデータの収集・公開を継続している。「日本産哺乳類の寄生蠕虫類リスト」および「鳥類の寄生蠕虫類リスト」はそれぞれ 4,033 件、2,053 件で、全収録数に増加はない。

3. 目黒区内の砂場における寄生虫卵調査

目黒区教育委員会の委託により行われている調査で、平成 28 年度は目黒区立の小学校 2 校・中学校 2 校・幼稚園 1 園が対象であった。平成 28 年 8 月 5 日(1校は 9 月 1 日に実施)と平成 29 年 2 月 9 日の 2 回、各施設の砂場とその周辺から砂を採取するとともに、構内の犬・猫の糞便を探索し、それらについて寄生虫卵の有無を調査した。今回の調査では、夏季・冬季とも砂場とその周囲の砂、および構内の猫の糞便から寄生虫卵と考えられるものは検出されなかった。1 校では構内で猫の糞便が発見されたことから、糞便による汚染への注意や手洗いの励行などの留意事項を報告書にまとめ、教育委員会へ提出した。(小川和夫、巖城 隆、脇 司)

4. 国立科学博物館附属自然教育園の生物相調査

自然教育園(東京都港区)の生物相調査の一環として、(独)国立科学博物館と共同で、平成 29 年 3 月 22 日・23 日に園内の動物(魚類、甲殻類、陸貝類など)を捕獲し、これらの動物の寄生虫を調査した。淡水

魚(モツゴ)から単生類、陸貝から吸虫類を検出したが、詳細については調査を継続中である。

II. 学術資料の収集および管理

1. 学術資料の収集・貸出

当法人が所蔵する寄生虫・宿主標本は現在約60,000点である。

職員が研究・展示のために収集した標本に加え、外部研究者からの寄贈標本の整理およびデータベース登録を継続中である。当年度の標本寄贈は15件・222点であった。

外部研究者への標本貸出は2件・7点で、その他、来館した研究者の標本閲覧は3件・約60件であった。また、他の博物館の展示協力等として3件・9点の標本、3件・10点の画像・映像を貸し出した。

当法人が所蔵する寄生虫タイプ標本は平成29年3月時点で1,214種・4,084点であり、当年度には10種・30点が追加された。これらの詳細は、「目黒寄生虫館所蔵タイプ標本一覧」として公式ウェブサイトで公開している。

2. 学術資料の整理

当法人では標本資料以外の図書・逐次刊行物、その他の資料についても収集し、書庫及び文献室に保管している。これらは博物館資料としてデータベース登録して、学術資料の拡充を図っている。当年度の資料の閲覧・貸出申請は25件・58点であった。

A. 図書・逐次刊行物

購入または寄贈により、当年度に29冊の図書を新たに登録した。蔵書数は平成29年3月末時点で5,076冊となった。登録した図書の一例を以下に示す。

- ・死の虫:ツツガムシ病との闘い(中央公論新社、2016)
- ・長与又郎:日本近代医学の推進者(考古堂書店、2012)
- ・絵でわかる寄生虫の世界(講談社、2016)
- ・This Is Your Brain on Parasites: How Tiny Creatures Manipulate Our Behavior and Shape Society (Eamon Dolan/Houghton Mifflin Harcourt、2016)
- ・Паразитические копеподы рыб: справочник. (Дальневосточный государственный технический рыбохозяйственный университет、2016) [Parasitic copepods of fish: a reference book. (Far Eastern State Technical Fisheries University, 2016)]

一方、逐次刊行物も寄贈や会員購読により約300種類およそ11,000冊を所蔵している。この中には過去に休刊となったものや購読をとりやめた種類も含まれる。当年度は研究機関・学術団体36機関、博物館等40施設の刊行物を新たに登録した。登録した刊行物の一例を以下に示す。

- ・Parasitology International Vol.65 No.1 - No. 6
- ・The Korean Journal of Parasitology Vol.54 No. 1- No. 4
- ・Advances in Parasitology Vol.38, Vol. 80 - Vol. 93 (過去発行分の寄贈)
- ・博物館研究(日本博物館協会) Vol.51 No.1 - No. 12
- ・milsil(国立科学博物館) Vol.9 No. 1 - No. 6

B. 論文別刷等の整理と電子情報化

文献室に保管する論文別刷・コピーのデータベース化は当年度でほぼ完了し、平成28年3月末時点のデータベース総収録数は42,939件であった。公式ウェブサイトでのこれら別刷等の一覧の公開を検討中である。

C. その他資料の整理

地下書庫には劣化が懸念される紙媒体の資料として、大鶴正満博士の医学資料、山口左仲博士の研究関連資料を多く所蔵している。当年度は新たに寄贈された佐々学博士の資料が追加された。これらを適切な管理のもと後世に残すため、平成25年から青山学院大学の協力を得て、中性紙保存箱への移し替えや目録作成など、資料整理とアーカイブ化を進めている。当年度は山口左仲関連資料のうち、論文図版の原図および画像ファイルの一部を展示室2階の常設展示に活用した。

III. 寄生虫に関する助言および指導、外部研究者との連携協力

来館者による質問は68件、電話およびFAXで受けた質問等はそれぞれ48件、3件であった。企業・一般から依頼された寄生虫・異物鑑定は5件であった。

また、当法人で受け入れを許可した研究生1名と外部法人の研究員(1名;沖縄美ら海水族館)研究指導のほか、大学の博士論文(1件;長崎大学)、卒業論文(1件;東海大学)の作成に関して指導・助言を行なった。

普及啓発事業(定款第4条第2号事業)

当法人の所有する建物は1階と2階に常設展示室を設けている。平成27年度第1回臨時理事会で承認された博物館規程の改正により、当年度から通常の休館日は毎週月曜日から毎週月曜日と火曜日の週2日になった。来館者の減少こそ免れなかったものの、1日あたりの来館者は増加している。寄付金収入も増額となり、限られた人材と財源の中で無料開館を継続していることに対して、多くの方から事業活動への理解が得られた結果であると認識している。

常設展示以外にも特別展示や講演会の実施、刊行物の製作など、本年度も多岐に渡る事業が展開されており、広く一般に向けた寄生虫学の普及啓発活動を通し、知識と理解の増進に寄与している。

I. 「目黒寄生虫館」の管理運営事業

1. 開館日数および来館者数

平成28年度の開館日数は256日であった。来館者数は約49,200名であり、1日あたり約192名が訪れた換算となる。来館者数は昨年度より約5,000人減少したが、1日平均の来館者数は約14名増加したことになり、来館者数の減少は抑えられた結果となった。

全来館者のうち、団体・グループ来館者数は2,588名であった。これは前年度とほぼ同数で、全体の4.7%にあたる。事前申込みを行う団体は約半数で、残りの半数の団体は、職員が来館時に申込書に人数を記入してもらうことで実態の把握に努めている。件数としては中学校が全体の約半数を占め、修学旅行や

校外学習の見学先となっている。一方で予約 1 件に対する申込者が多いのは大学や専門学校であり、その殆どが講義で利用するケースである。その他にも、地域歩きやボーイスカウトなど、生涯学習活動の一環で訪れる団体が 25%程度を占めている。人数や来館者ニーズの把握のため、団体見学の実態は今後も経年で傾向を追う必要があるだろう。

来館者層は若者から高齢者まで様々である。館内で随時実施するアンケートは来館者の約 3%から回答が得られている。それによれば、関東圏の来館者が半数を占めるものの、ほぼ全ての都道府県から訪れていることがわかった。また、回答者の 2 割は外国人来館者で、出身国は 30 カ国に及んだ。アンケートは必須回答ではないため必ずしも来館者比率の実態を表しているとはいえないが、海外からの来館者が増加傾向であることが示された。国内のみならず世界的にも目黒寄生虫館の認知度が着実に高まっていることが窺える。その一方で、解説の多言語化など、外国人来館者に対する課題は少なくない。

2. 常設展示の更新・追加

1 階展示室の導入部となる、寄生虫の基礎的な事項を解説したパネルを改修した。これは平成 5 年のリニューアルオープン当初に作製されたもので、老朽化が目立ち、情報更新は喫緊の課題であった。平成 29 年 3 月 28 日に、構築物の取付工事を行い、翌日より展示を開始した。パネルには最新の知見を反映させ、来館者の操作によってパネルの詳細や英文解説を閲覧できるタッチパネル・ディスプレイを新たに取付けた。今後も最新のコンテンツを提供できるよう努める。なお、本展示の製作は「(一財)全国科学博物館振興財団平成 28 年度科学系博物館活動等助成事業」の助成(40 万円)を受けたものである。

昨年度設置した山口左仲の研究業績を展示するコーナーでは、多数の精密な寄生虫図版の原図を見もらうため、定期的に入れ替えを実施した。その他にも個々の標本の解説パネルを見やすいものに更新したり、貝類標本を観察しやすいものに交換したりするなど、よりよい展示を目指している。

3. 取材対応

当年度の取材申請は 40 件で、このうち 20 件がメディア掲載ないし放映された。内訳はテレビ 3 件、ウェブサイト 3 件、書籍・雑誌類 7 件、フリーペーパー 7 件であった。昨年度は「蟯虫検査が健康診断から廃止」「大村智博士のノーベル賞受賞」といった寄生虫にまつわるトピックが多かったために取材申請も集中していたが、当年度はそれらの盛り上がりが一服したようである。申請内容も「アニサキスについて」「蟯虫について」「日本の名所紹介」「ユニークなミュージアムグッズ紹介」などバリエーションに富んでいた。

II. 教育普及活動事業

1. 特別展示

A. 特別展示

平成 28 年 5 月 22 日から 10 月 10 日まで「顧みられない熱帯病を知っていますか？ーリンパ系フィラリア症制圧に向けて」を開催した。大村智博士のノーベル賞受賞により、顧みられない熱帯病に関心の目が向けられるようになった。国内のフィラリア症対策の過程や世界における現状を当館で伝えることには大きな意義がある。展示では解説パネルや写真に加え、記録動画、対策に用いられた検査簿や記録ノートの実物、世界のフィラリア症対策で配布されている駆虫薬の瓶やキャンペーングッズなどを展示した。なお本展示に際しては、長崎大学熱帯医学研究所の一盛和世教授による監修を受けた。さらに、資料の提供にあたっては、同研究所の熱帯医学ミュージアム／フィラリア NTD 室／寄生虫学分野、青山学院大学、エーザイ株式会社、MSD 株式会社、グラクソ・スミスクライン株式会社の協力を得た。

B. 他館の特別展示協力

宮入慶之助記念館(長野県長野市篠ノ井)で平成 28 年 7 月 23 日より 8 月 31 日まで特別展示「山にいる寄生虫」が開催された。これは長野県内の 106 の博物館が参加した「信州とあそぼ!・信州ミュージアムネットワーク事業」の一環として行われた特別展示である。寄生虫の生体展示を行う数少ない機会であり、当館ではパネル作製および動画提供と、実物のヤマビルおよびマダニの提供に協力した。なお、生体の採集にはヤマビル研究会の谷 重和氏と旭川医科大学の中尾 稔氏の協力を得た。

2. 講演会など

A. 解説会

平成 28 年 9 月 22 日と 10 月 10 日に解説会「顧みられない熱帯病・リンパ系フィラリア症とは？」を開催した。展示を担当した研究員が特別展示の内容をより掘り下げて説明するもので、事前に Web サイトや館内ポスターで告知した。参加費は無料で、2 日間の参加者は約 40 名であった。

B. 講演依頼の受け入れ

職員による講演等の依頼があった場合には、可能な範囲で受け入れている。講演により寄生虫学に対する関心や理解が深まることが期待される。当年度に実施された主な講演を以下に挙げる。

- 平成 28 年 5 月 28 日 八王子市生涯学習センター市民自由講座
「おもしろ寄生虫講座～私たちと寄生虫」(巖城 隆)
- 平成 28 年 9 月 8 日 三鷹ネットワーク大学 サイエンスカフェみたか
「寄生虫なんてどこにいるの?」(巖城 隆)
- 平成 29 年 2 月 16 日 青森県産業技術センター内水面研究所
「魚介類における寄生虫と食品安全について」(小川和夫)

3. 博物館学芸員実習生の受け入れ

当法人の運営する博物館は博物館法第 2 条に定義される登録博物館である。そのため、博物館法施行規則第 2 条に基づき、博物館学芸員資格取得のための実習生を毎年受け入れている。当年度は実習日数を水曜日から日曜日の 5 日間とした。展示物製作、標本登録、館内管理といった様々な分野から、総合的かつ多面的に博物館を捉えられるよう、実習プログラムを作成した。日々の実務を担当職員が指導しながら、実習生に学習の機会を与えている。さらに、期間中には、展示の課題や工夫点などを探し、改善案やアイデアを職員にプレゼンテーションする時間を設けている。実習生との対話の中で、学生のよい体験になると同時に、博物館側にも有益なものになるよう心がけている。寄生虫学への興味はもとより、座学だけでは学びきれない博物館運営の実情を理解することで、博物館学に対する理解をより深めることに貢献した。当年度は以下の 9 大学、計 10 名が参加した。

武蔵野美術大学 高知大学 駒沢大学 女子美術大学 日本大学 聖心女子大学
東京大学 青山学院大学 東京工芸大学 (受入順)

Ⅲ. 寄生虫学への理解を深める資料の刊行・製作事業

1. 刊行物の製作と頒布

広報誌「むしはむしでもはらのむし通信」は平成 28 年 12 月 22 日に第 196 号(B5 版 カラー 16 ページ)を刊行した。巻頭の読み物は小川和夫館長執筆による「山口左伸ー動物寄生虫分類学のパイオニア」を

掲載した。読み物の他に、特別展示の実施記録や展示更新状況の周知も兼ねた刊行物である。発行部数 600 部のうち約 180 部を関係機関・博物館等に配布した。53 部を年度中に販売し、残部は次年度以降も引き続き頒布する。一方、平成 23 年度に刊行した第 191 号は期中に完売となった。在庫がある 192 号以降のバックナンバーを含めた頒布数は 352 冊であった。

また、当年度も展示ガイドブック和文版/英文版(B5 版 カラー16 ページ)の有償頒布を行った。年間頒布数は 1,089 部で、そのうち約 2 割にあたる 180 部が英文版であった。

2. 教育用標本の頒布

昭和53年、日本寄生虫学会創立50周年記念事業として「教育標本サプライセンター」が発足した。当法人は発足当初よりセンターの実務を担当してきた経緯がある。そのサプライセンターを前身として、医学系の大学や教育機関等を対象に現在も寄生虫標本を頒布している。これらは講義や実習を通じて多くの学生たちが寄生虫学を理解するための一助となっている。平成28年度は25機関から29件の依頼を受けた。販売総数は、寄生虫卵液浸標本124本、スライド標本(塗抹標本)70枚であった。在庫の減少から販売数の減少が続いているが、今後も関連学会と連携を深め、大学関係者等のニーズを調査することによって、販売用の確保に努めていく。

IV. 目黒寄生虫館ミュージアムショップの運営事業

展示室 2 階に併設されたミュージアムショップにおいて、前項の刊行物の販売と寄生虫学関連書籍・オリジナルグッズの委託販売を継続した。期中にレジスターが故障したため、新たに iPad を用いたレジシステムを導入した。その結果、要望の多かったクレジットカード決済の対応が可能となり、来館者のニーズに応えられることとなった。

火曜休館に伴う売上高の落ち込みが懸念されたが、幸い大きな影響はなく、1 日平均の売上高は増加した。アイテム数は約 20 種類で昨年度と変動はない。期中には、新刊小説の表紙にフタゴムシのキーホルダーが描かれたことで読者が購入に訪れるようなケースも多く見られた。ミュージアムグッズが来館の動機付けとなった好例である。グッズを足がかりにして来館者数を伸ばし、多数の知的好奇心を満たすことが、ショップ展開の上で重要だといえる。「寄生虫学の理解をより深める」「寄生虫学に興味を持つ」という視点に立ち、今後の新商品の製作や商品の入れ替えの検討材料としていきたい。

一方で書籍類は期中に新刊 4 冊が刊行され、絶版による完売が 3 冊あった。中でも新刊「絵でわかる寄生虫の世界(講談社)」は小川和夫館長の監修によるもので、高い専門性を有している。合計 12 冊の書籍を展開し、年間販売冊数は合計で 738 冊であった。博物館見学による学習は一時的な時間に過ぎないが、書籍を通して、館内で得られた知識は持続されることの意義は大きい。生涯学習活動の一助となることがショップ運営の本質でもあり、その効果が期待される。

また、平成 28 年 4 月 23 日から 6 月 5 日まで、美濃加茂市民ミュージアム(岐阜県美濃加茂市蜂屋町)にて「おどろきとこだわりのミュージアムグッズ展」が開催された。博物館の開発するオリジナルグッズのユニークさと科学性にスポットを当てた取り組みで、目黒寄生虫館のグッズの中からも数点が紹介され、概ね好評であった。西日本にも博物館の紹介が広められたことになり、さらなる周知につながると見込まれる。

その他実施事項等

I. 理事会・評議員会等の開催

1) 平成 28 年度第 1 回定時理事会開催

開催日時 平成 28 年 6 月 5 日(日) 午後 1 時～3 時

開催場所 目黒寄生虫館 6 階 生涯学習室

出席理事数 7 名 (総数 7 名) 出席監事数 2 名 (総数 2 名)

報告事項 理事長・常務理事による職務の執行状況の報告

下案を審議し、可決承認した。

第 1 号議案 平成 27 年度事業報告書案の承認の件

第 2 号議案 平成 27 年度収支決算書案の承認の件

第 3 号議案 資産取得資金の繰入の承認の件

第 4 号議案 内閣府への定期提出書類の承認の件

第 5 号議案 理事長および常務理事の任期満了に伴う改選の件

第 6 号議案 定時評議員会の日時及び目的である事項等の件

2) 平成 28 年度第 1 回定時評議員会開催

開催日時 平成 27 年 6 月 26 日(日) 午後 1 時～3 時

開催場所 目黒寄生虫館 6 階 生涯学習室

出席評議員数 7 名 (総数 7 名)

他 出席役員 5 名 (理事長・常務理事 2 名・監事 2 名)

報告事項 平成 28 年度第 1 回定時理事会の開催報告

下案を審議し、可決承認した。

第 1 号議案 平成 27 年度事業報告書案の承認の件

第 2 号議案 平成 27 年度収支決算書案の承認の件

第 3 号議案 改選に伴う理事の選任の件

第 4 号議案 改選に伴う監事の選任の件

3) 平成 28 年度第 1 回臨時理事会(みなし決議)

開催があったものとみなされた日 平成 28 年 6 月 26 日(日)

決議があったものとみなされた内容

第 1 号議案 理事長および常務理事の任期満了に伴う改選の件

4) 平成 28 年度第 2 回臨時理事会(みなし決議)

開催があったものとみなされた日 平成 28 年 10 月 1 日(土)

決議があったものとみなされた内容

第 1 号議案 平成 27 年度収支決算書(正味財産計算書)修正の件

第 2 号議案 科学研究費補助金事務取扱規程の改正の件

第 3 号議案 研究活動に係る不正防止に関する規程の改正の件

第4号議案 旅費規程の改正の件

5) 平成28年度第3回臨時理事会(みなし決議)

開催があったものとみなされた日 平成29年2月15日(水)

決議があったものとみなされた内容

第1号議案 平成28年度補正収支予算書(資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類を含む)の承認の件

第2号議案 情報公開規程の改正の件

第3号議案 特定費用準備資金の再繰入の件

6) 平成28年度第2回定時理事会開催

開催日時 平成29年3月19日(日) 午後1時~3時

開催場所 目黒寄生虫館6階 生涯学習室

出席理事数 7名(総数8名) 出席監事数 2名(総数2名)

報告事項 理事長・常務理事による職務の執行状況の報告

下案を審議し、可決承認した。

第1号議案 公益財団法人目黒寄生虫館平成29年度事業計画書案及び収支予算書案(「資金調達及び設備投資の見込み」を記載した書類を含む)の承認の件

第2号議案 定款の改正案の評議員会への提出の件

第3号議案 役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程の改正案の評議員会への提出の件

第4号議案 館長の任期満了に伴う再任の承認の件

第5号議案 ウェブサイトの電子公告に係るURL変更の承認の件

第6号議案 書面決議による評議員会の開催及び目的である事項等の件

7) 平成28年度第1回臨時評議員会(みなし決議)

開催があったものとみなされた日 平成29年3月27日(月)

決議があったものとみなされた内容

第1号議案 平成27年度収支決算書(正味財産増減計算書)の修正の件

第2号議案 定款の改正の承認の件

第3号議案 役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程の改正の承認の件

II. 省庁および自治体等への届出事項、他

平成28年

4月1日 「国と特に密接な関係がある公益法人への該当性について」報告書 内閣官房内閣人事局

5月30日 法人税申告書 目黒税務署

6月27日 一般財団法人変更登記申請(役員等の変更) 東京法務局

6月28日 平成27年度事業報告書・収支決算書等の届出書 内閣府

7月8日 役員変更の届出 内閣府

9月3日 平成28年度「寄生虫に関する調査研究委託」中間報告書 目黒区教育委員会

8月6日	「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づく取組状況に係るチェックリスト	文部科学省(研究公正推進室)
9月24日	体制整備等自己評価チェックリスト	文部科学省

平成 29 年

2月24日	休日労働・時間外労働に関する協定書	品川労働基準監督署
3月8日	平成 28 年度「寄生虫に関する調査研究委託」成績報告書	目黒区教育委員会
3月21日	一般財団法人変更登記申請(電子公告方法の変更)	東京法務局
3月23日	平成 29 年度事業計画書および収支予算書の届出	内閣府
3月29日	定款及び報酬支給基準の変更の届出	内閣府
	その他、各種調査書類等への回答	内閣府等

Ⅲ. その他の事項

1. ウェブサイト

公式サイト(<http://www.kiseichu.org/>)では目黒寄生虫館からの情報発信、すなわち事業内容の紹介や開館案内を公開している。情報公開ページも定期的に更新し、法人の電子公告に努めている。平成 29 年 3 月 1 日よりサイトを全面リニューアルした。ウェブサービスの移行により、問い合わせフォームの設置や PayPal 社を通じた寄付金の送金システムなど、旧サイトでは技術面で対応できなかったサービスの導入を開始し、利便性の向上を目指した。また、携帯端末での閲覧が PC を上回っている実態を踏まえ、モバイルサイトも並行して製作した。閲覧者数の 1 日平均は 498 名であった。

2. 博物館に隣接する自動販売機について、雑収入を計上した。

3. 平成 28 年度補正収支予算書内の「設備投資の見込み」で可決承認された、老朽化した駐車場ガレージゲートの改修工事を実施した。

附属明細書

平成 28 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。